# 押仲

大橋町会長題字

## 【会長のご挨拶】

押上一丁目仲町会
町会長　大橋由明

春暖の候、町会員の皆様には、お変わりなくご健勝のこととお察しいたします。

東武鉄道㈱の押上第二号踏切の高架工事については、完成まで相当年数を要する状態です。墨田区の都市計画では、東武鉄道本社前道路から奥の方へ道路幅員を広げて入り、一番奥にロータリーができ、そのロータリーから高架下を潜り「南北線」の歩行者専用道路が設置予定です。その他、押上駅周辺の整備も計画されているようです。

飛木稲荷神社の「祭礼は例祭」となります。「祭礼日程」は、九月十一日（金）から十三日（日）の予定となりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

今年度は、町会役員の改選の年でもあります。町会役員にご奉仕できる方は、多数の皆様のご協力がいただきますようお願い申し上げます。

今年度も町会内の皆様には大変お世話になり有難うございました。

## 【婦人会】

峯岸　久美子

今年の冬はきびしい寒さでしたが、皆さまお変わりありませんか？「暑さ寒さも彼岸まで」と申しますが、本当にそのとおりですね。お彼岸に入ってから暖かくなり、桜のつぼみもふくらみ、三月中には満開になるようです。

婦人会では新年度まで行事はありませんでしたが、町会の防火防災部より「春の火災予防運動週間」の期間、夜警の応援依頼がありました。「本所防火女性の会」に所属している三名が参加いたしました。

慣れない手でカチカチと拍子木をたたきながら町内を歩きましたが気がつかれましたでしょうか？　途中　家の中から「ご苦労様」とお声をかけていただくと寒さもとんでしまうほどありがたく感じました。少しでもお役にたてて光栄でした。

押上一丁目仲町会広報部
編集責任者　山本　勝信
第六十四号
平成二十七年三月三十一日

## 【しらとり子供会】

古山　統子

寒い日も暖かな日もありますが、皆さま体調などいかがでしょうか。

子ども会では、去る三月七日（土）の夜に「歓送迎会」がありました。昨年同様に押一子ども会さん主催で、錦糸町近くの中華食べ放題のお店にて行われました。途中子供たちにはビンゴ大会があり、それぞれ景品をもらいうれしそうでした。

今年は登校班で、卒業生が二名、四月からは新入生が三名加わります。お世話になった六年生はたくましく中学生になる抱負を挨拶にしてくれました。

しらとり子供会内には、卒業生も新入生もいませんが、来年度は新六年生、新四年生、新三年生の三名の男子でがんばっていきます、よろしくお願いします。

## 【OST】

実行委員会

**押仲すこやかチーム二十周年記念祝賀会**

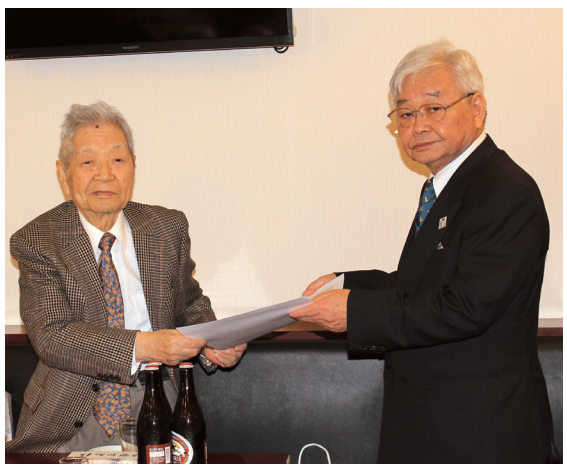
「押仲すこやかチーム」も早いもので二十周年を迎えることができました。平成二十七年三月二十九日に祝賀会を開催することができました。これも会員の皆様方のご協力の賜物と思います。

少子高齢化により高齢者の人口も増えてまいりますが、OSTの会員の方々は健康に留意し、精神、肉体的に若さを維持しています。

私も会員の方々に接する度に若さのエネルギーを頂いております。これからも元気よく活動してまいります。会員の方々のご支援により楽しく、健康的に若い方たちから羨ましいと思われるよう活動して行く所存です。

また、二〇二〇年のオリンピック開催時にボランティア活動ができるよう励みたいと思います。

今後とも宜しくお願いします。



## 【交通部からお知らせ】

先日回覧でご案内した「区民交通傷害保険」の当町会の加入店の加入者数五十六名でした。各地区部長の皆様取りまとめ頂き誠にありがとうございました。皆様からお預かり頂いた申込書と掛金は、三月十二日に墨田区役所十四階の「区民活動推進課」に提出してきました。

皆さんのお手元に領収書兼加入者証が届くには少し時間がかかると思いますが、何とぞご承諾おき下さい。何かご不明な点がありましたら、「区民活動推進課」にお尋ね下さい。

## 【すみだ景観フォーラム】

第七回すみだ景観フォーラム主催シンポジュウム　商店街は　まち　の景観「それでも商店街は必要だ！！」基調講演「街の魅力・商店街の魅力」服部明治学院大学経済学部教授の講演を受けてきました。

まず初めに住民にとって商店街は大切なもので、どうしても必要不可欠なものなのかと言う商店主にとって厳しい問いかけから始まり。SC（ショッピングセンター）、CS（コンビニエンスストアー）があれば事足りるのではないか、SC，CSと商店街の消費者による比較。

消費者からの両者に対する視点。

店側からの視点。

社会的視点（今回の主催の景観からの視点）

以上三視点からの基調講演で「それでも商店街は必要だ」に対する下記の六点の結論になりました。

一、消費者にソムエリ的サービスを提供。

二、起業たる機会を提供する。

三、広場としての準公共空間（財）。

四、地域性を反映させた町並みを景観形成する。

五、社会教育の場。

六、地元の人が街を楽しむ機会を提供

その次に区内数箇所と区外一箇所の商店街の写真による説明が行れました。

最後にパネラーデスカッション（参加者は大学教授、商店街事務局長、ゼミ学生、区在住の建築士、コンサルタント以上五名その他出席者）で「商店街の活性化」と言うキーワードで行われました。

このデスカッションの中で多種の意見が出てきましたが、現役商店街事務局長のお話が心に残りました。

日本の全国商店街は一万三千余り、東京都の商店街は二千六百強、墨田区商店街は四十一（最盛期には五週七商店街）であり厳しい現状です。墨田区の商店街は地域密着型商店街を目指すべきであり、なお、一番苦戦を強いられている商店街のかたちです。

特に下町は住民と地域文化を反映された密度の濃いコミニュテーがありますので商店街の方向性が見えてきます。

結論として「商店街の活性化はいかに！」のパネラー回答は五名とも「人」と言うことでした。

個々の商店が専門知識を深め、楽しい商店街を作り、エキサイテング、イージーに考えられる催事を継続する。と言う簡単ではないが日々努力をしていく事だと思います。その為には若手の経営者、店主が商店街の行事に積極的に参加し、なお、外部の若手の意見を取り入れていかなければなりません。

## 【押上界隈の歴史あれこれ】

横井正男

戦後、都電の終点が柳島車庫から福神橋まで、向島須崎町から寺島広小路（後に東向島広小路）までそれぞれ延長されました。懐かしい思い出として、戦後まもなくの一九五二（昭和二七）年に「トロリーバス」が上野公園～今井橋間を押上駅前経由で開通しました。当時はレールがなく架線だけで走れる交通機関として都電に変わり活躍すると期待されましたが、その後、架線もいらない大型バスの普及により、一九六八（昭和四三）年都電と共に廃止されてしまいました。一六年間の短い命でした。この地図では曳舟川の埋め立て工事はまだ完了していません。

五〇年前の一九六四（昭和三九）年に住居表示変更があり向島請地町の南部、向島押上町、そして吾嬬町西一丁目及び二丁目の一部が加わり新たに現在の「押上二丁目」になりました。

左図⑥は、「すみだガイドマップ」からの抜粋した現在の地図です。

また、向島請地町の北部は須崎町の南部と寺島二丁目の一部が加わり「向島四丁目」になりました。北十間川南側の業平橋は平川橋と共に「業平」に変わりました。

この様にしてこの界隈の歴史的な地名であった請地・中之郷・須崎・小梅・寺島・吾嬬・柳島等の名が完全に消えてしまいました。今になってみると実に残念なことであったと思います。この頃の写真は続編でご紹介します。

東京都は一九六七（昭和四二）年に、四〇年余り活躍した都電を、王子～早稲田間の一区間のみ残し全面廃止しました。

経済発展に伴い自動車が普及したことで、都電の路面運行が交通大渋滞の原因となったためです。併せて、バスの運行が進み、地下鉄が順次拡充され公共交通機関として代替できる様になりました。

一九七一（昭和四六）年の首都高速道路六号向島線・七号小松川線開通も一時期、幹線道路の渋滞緩和になりました。

四六年前の一九六八（昭和五三）年、京成電鉄押上駅で都営地下鉄浅草線と相互乗り入れすると、ターミナル駅であった地上の押上駅は地下ホームに変わりました。

一九八五（昭和六〇）年に桜橋が開通しました。

二〇〇三（平成一五）年東武鉄道は東京メトロ半蔵門線とつながり、新たに東武「押上駅」が新設され、京成・都営地下鉄との乗換駅となりました。乗降客は格段に増加し、押上・向島・業平地区は一段と交通の至便な街となりました。

更に、二〇一二（平成二四）年、スカイツリー・そらまちがオープンし、地域経済は非常に苦戦を強いられていますが、押上界隈は驚愕の変貌を遂げました

曳舟川は五五年前の一九五九（昭和二九）年に都条例で廃止、埋め立てられて現在の「曳舟川通り」になり水戸街道のう回路として活躍しています。その結果、戦前に計画した小梅通りの開発は中止され、現在のような行き詰まり状態の道になりました。

### 3．昔の押上駅と都電

終戦の一九四五（昭和二〇）年～一九六五（昭和四〇）年頃の押上界隈のランドマークといえば、京成橋の正面にあったバラック建ての京成押上駅舎であったと思います。駅舎は戦後いち早く建てられました。昭和四三（一九六八）年に京成が都営地下鉄浅草線と相互乗り入れが実現するまで、この駅舎ではなかったかと記憶しています。周囲には全く高い建物がありませんでした。

押上駅は改札を通り、階段を降りるとホームです。ホームは何番線までありましたかねえ。金町行・成田行きが出ていました。

朝のラッシュアワーには千葉県や江戸川・葛飾区方面からの通勤客や学生・高校生たちがどっと降り、改札口を目指して一斉に走り出します。今の様な自動改札ではなかったので構内は大混雑です。駅員の切符・定期券のチェックもソコソコに乗客の多くは京成橋を急ぎ足で渡り、都電の押上駅停留所に殺到していた光景を思い起こします。

柳島車庫始発の都電は23番月島行と24番須田町行きの二系統が走っていました。

当時の柳島車庫（墨田区の歴史）

1957(昭和 32) 年頃の押上駅（墨田区の歴史）より

昭和 25 年頃 23 番月島行朝の都電（墨田区の歴史）

当時の押上駅構内（細川勝也氏蔵）

狭い停留所のホームには乗客が乗り切れずはみ出るほど溢れていました。

都電の運転手や車掌さんは出来る限り乗客の積み残しがないようにとの配慮からか、満員の車内から溢れ出た乗客のためにドアを開けたままで走り出していました（写真）。当時は日本も発展途上国だったのですね。これが毎朝の都電ラッシュアワーの光景でした。よく事故や怪我人が出なかったと今思うと感心すると同時にぞっとします。

朝のラッシュアワーが過ぎると、千葉県近郊の農家の主婦が取れたての野菜を沿線の家庭に売り歩くいわゆる「かつぎ屋」の集団が乗ってきました。かつぎ屋の女性たちは（竹で四角く編んだ大きな）背負い籠に取れたての農作物を一杯詰め、更に大きな風呂敷に包んだ作物を籠の上に高く積み背負います。両手には、農産加工品の饅頭・お赤飯・漬物・等々を手提げ籠にこれまた一杯詰めて持ちます。総重量は何十キロの荷物を持っていたのでしょうか。

子供心に「農家のおばさんたちは力持ちだなあ」と感心していました。今では、新鮮野菜の入手が容易になり、流通コストも安価になったため、いつの頃からか見かけなくなりました。

次号に続く

## 【編集後記】

総会に出よう！

町会費を払っている町会員の皆さん、今年は町会の総会に出てみませんか？

一年間の町会活動の報告だけではなく、町会員の皆さんが日頃感じている疑問を説明してくれます。

たとえば、関東大震災から９２年、東日本大震災から４年が経って、私達の地域の防災対策は住民にとって大切な事柄ですから、墨田区や町会の防災対策の内容を担当責任者の防災部長が丁寧に説明したり、更に町内には墨田区が設置管理する消火器と町会が設置管理する消火器があり、墨田区は定期的に交換していますが、町会設置の消火器は長期間更新していないようですから、消火器の使用限度が過ぎた現状と対策を町会幹部の責任者が具体的に話してくれるでしょう。

また、高齢化や単身世帯が増える状況の中で、安心して暮らせる町づくりのために、民生員や町会がどのような活動をしているのかを直接民生員や町会幹部に説明して貰う機会です。

自分達の住む町に関心を持つ事も大切ですから総会に出てみましょう。